

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成21年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校の跡に建っており、近くに保育園があります。海も近く、自然に囲まれています。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来できて、普段から交流を多くもっています。ホームは、総合福祉施設の中の1事業所であり、これらの施設と合同で、行事が行われたり、随時の看護支援が、得られる等、日常的に連携がとれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海水浴場を一望できる高台に同法人の高齢者総合福祉施設があり、ホームはその1階にデイサービスセンターと並んで配置されている。利用者一人ひとりの介護度の現状維持ができていながらも、総合福祉施設の利点を生かした日常的なリハビリ機器の活用や合同行事によるところが大きいと考えられる。職員は、「家族と一緒に作るグループホーム」でありたいと願い、また家族とのつながりを再構築する意味も含めて、訪問を歓迎し、外出・外泊にも家族の協力を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)  
氏名 中村利恵

評価完了日 平成21年 11月 2日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員で話し合っって決めた理念を共有し実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念と基本方針があり、毎日の申し送り時等に、全職員で唱和している。ホームの職員はその理念に沿って自分たちの言葉で表現した介護理念を作成し、日々の介護の指針としている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的な交流はあまりできていないが、施設全体での行事で地域の人との交流がある。</p> <p>(外部評価) 幹線道路からホームのある総合福祉施設までの間に民家はなく、地域との交流は地理的に困難な状況にある。行事は施設と合同で開催しており、その時の交流を大切にしている。今年度は新型インフルエンザの影響で行事に地域の方の参加を求めることができず、交流は少なかった。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 少しずつ家族様には理解していただいているのではないかとされる。地域については、運営推進委員会において理解してもらえよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、近況報告や取り組みのテーマに沿って話し合いを行い、推進委員からの意見、家族の要望などを聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行いサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 平成21年度の運営推進会議は3か月に1回の開催となっている。新型インフルエンザ等の影響により、利用者と会議メンバーとの交流も難しかったが、メンバーからは、会議を通して「グループホームとはどんな施設であるか、どんなケアがなされているか」等について理解できたと聞くことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入居者の入退居や介護認定の更新の際、情報の共有したり、事故防止などの取り組みで、連携を取ったりしている。介護相談員の受け入れや意見交換も行っている。	
			(外部評価) 帰宅願望の強い利用者への対応について町担当者から様々な助言を受けた経験もあり、信頼関係を築いている。また、町から派遣される介護相談員は利用者と同レベルの方が多く、利用者にとっても職員にとってもメリットが大きい。行政・相談員・ホーム間の役割分担や情報の流れも確立されており、反省を含めた意見交換も実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。	
			(外部評価) 身体拘束に関するマニュアルを作成しており、職員は拘束に関する具体的な行為を理解したうえで、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員で理解している。言葉の虐待もあるので職員同士声を掛け合いながら、注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については以前利用された方がおられたため大半の職員が理解しているが、新しい職員もいるので勉強会を行っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行っている。平成21年4月の介護報酬改定に伴う重要事項の見直しの説明は書面を送付して対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。又、定期的に介護計画確認書を送付し、疑問、要望等書いて頂き反映できるように努めている。  (外部評価) 管理者は、家族と共につくるグループホームを目指しており、家族の訪問を意見を聞く大切な機会と位置づけている。介護計画について家族の確認を得る際に、家族が意見を記入できる欄を設け、自由に思いを記載できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で意見を出し合い、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。  (外部評価) 職員会で意見を出し合い、必要があれば役職会で検討するシステムになっている。夜勤は2ユニットを1名の職員で対応しているが、ユニットの位置関係や居室の出入口の見づらさ、夜間の対応に工夫を要する利用者もいるため、夜勤1人体制についての議論も必要な時期に来ていると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、代表者・管理者による面談を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話ができる時間を持ち、本人の思いや不安をくみとれるように努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人様、家族様の希望を聞き、様々なサービスが利用できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意をし、声かけや対応を行っており、又、理念に掲げて共に支える関係を築くよう努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二ヶ月に一回の近況を報告したり、面会に来られた際に家族様と話し合う機会を取ったり、家族と一緒に本人様を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力して頂き、自宅への外出、外泊を行っている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。  (外部評価) 利用者の多くは入居前に独居生活を経験されており、近所の方との関係を大切にしながら生活していた。その関係を継続するためにも、家族の協力を得ながら一時帰宅・外泊を定期的に支援している。併設施設に出入りする馴染みの方も多く、相互に訪問し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 移動時の付き添いに一緒に行かれたり、車椅子を押して下さったり、食事・おやつ時に声を掛け合ったりされ、利用者様同士支え合っている。心身の状態や気分に変化する時は職員が介入している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後併設の特別養護老人ホームに入所された方には、散歩を兼ねて会いに行き付き合いを大切にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して、本人様の希望を聞き入れている。又、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。	
			(外部評価) 本人の思いを把握するため、多くの情報を集める努力をしている。特に家族等の訪問時の様子は丁寧に連絡ノートに記録して全職員で共有し、介護計画作成時にも活用している。元気になって自宅に帰ることを目標にしている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にアセスメントを行い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様や家族様の意見・本人様の状態やスタッフの意見を反映して介護計画を作成している。	
			(外部評価) 3か月に1回介護計画を見直している。利用者一人ひとりの担当職員が情報の整理を行い、見直し時の資料としている。介護計画は家族に郵送して同意を得ており、家族の意見を書く欄も設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中、夜勤間の引継ぎを行い、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもありグループホームで生活困難になった場合には家族様の相談にて特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいたりしている。また、散歩に出た時等地域の方とお話していただいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異変時 には主治医と家族に聞き、対応している。	
			(外部評価) 利用開始時に本人及び家族と話し合っているが、立地 条件もあり、特別な診療科を受診する必要がある方以 外は、月2回の往診がある協力医療機関を選択する場 合が多い。家族への情報提供については、急変等がな ければ2か月に1回請求書に同封して書面で報告して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホーム併設のため特養の看護職員に相談 したり、診て頂いたりしている。また、2週間に1回の 定期回診には、一緒に立ち会って頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護 士に状態を聞いたりして、早期退院ができるように医 療機関との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしてない。重度化した場合は些細なこと でも家族に連絡している。	
			(外部評価) 看取りに関する方針は、入居時に本人及び家族に十分 説明している。現在まで看取りの経験はなく、今後も 予定していない。併設の特別養護老人ホームで実施す る研修に参加したり、看護師の指導を受けるなどし て、緊急時の対応は日々学んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応については、見やすい所に貼っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者様が避難できる方法を身に付けている。  (外部評価) マニュアルもあり理解していたつもりであっても、夜間を想定した避難訓練を実施した際に職員が持った不安は大きかった。運営推進会議で訓練の報告を行い、災害時の応援を依頼している。運営推進会議のメンバーも含めて再度訓練を実施することになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際はノックを行い本人の理解を得て訪室するようにしている。個人情報やワーカー室扱いにしている。廃棄する際には、シュレッダーにかけて注意をはらっている。  (外部評価) 利用者の表情は穏やかで、それぞれお気に入りの場所でゆったりと寛いでいる。職員は、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや対応には十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉使いはせず、あくまで本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類等は家族に相談して持ってきていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容師にきていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため献立は管理栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。畑やプリンターで出来た野菜と一緒に料理して季節感を味わっていただいている。  (外部評価) 食事に関する一連の作業を利用者と一緒に行うには調理室が狭いため、難しい状況にある。利用者がゴボウを笹掻きをしているのを他の利用者が見守っている姿は穏やかであった。職員は、利用者と同じテーブルに着き、各自が持参した弁当を食べている。	「家庭」という視点から見ると、利用者と職員が同じ食事を楽しめるような工夫も必要ではないかと思われるため、検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量を把握している。食事量が減ってきている方には食事形態を改善したり、主治医・家族に相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗した時でも、本人が傷付かないように配慮しながら対応している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握したうえで、適切な支援を行っている。トイレでの排泄が中心であり、夜間も自室にポータブルトイレを設置する利用者は1人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に相談しながら下剤でもコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックをおこない体調の良い日は、本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日はシャワー浴、足浴、清拭等、利用者個々の状態に応じて支援をしている。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。	
			(外部評価) 利用者の安全確保や、夜勤者が1人という勤務体制から、夜間の入浴希望への対応は現状では行っていない。本人の体調や気分に応じた配慮しながら、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬、服薬忘れをしないよう気を付けている。服薬時には職員同士確認した後、本人に確認して頂き誤薬のないように慎重に行っており、薬の変更時は、申し送りノートを利用し、周知徹底している。薬の保管はワーカー室の鍵をかけた棚で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来そうな仕事をお願いして、感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ぶどう狩りや花見等、季節にあわせた外出を行っている。又、家族の協力を得ながら外出・外泊等行っている。  (外部評価) ホームから道路に出るには坂道があり、海風が強い日もあり、気軽に外出できる環境とは言えない。家族の理解と協力のもと、一時帰宅・外泊等でカバーしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時は、自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人の希望のある時には支援している。又、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングはソファを用意し、テレビを観たりお話ができるようにしている。季節がわかるような草花を飾ったり、利用者様と一緒に壁飾りを作成したりして、居心地よく過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 共用空間は広く、ゆったりとしている。床の材質は木材で温かみを感じる。畳の間にはこたつがあり、利用者には昼寝をするのに好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前や談話室のソファで気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が安らぎを得るような馴染みの物が、環境作りに欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけをしている。	
			(外部評価) 私物の持ち込みが少ない居室もあるが、全体的に清潔ですっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力や状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除けるよう支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成21年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校の跡に建っており、近くに保育園があります。海も近く、自然に囲まれています。平屋のホームなのでユニット間が自由に行き来できて、普段から交流を多くもっています。ホームは、総合福祉施設の中の1事業所であり、これらの施設と合同で、行事が行われたり、随時の看護支援が、得られる等、日常的に連携がとれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海水浴場を一望できる高台に同法人の高齢者総合福祉施設があり、ホームはその1階にデイサービスセンターと並んで配置されている。利用者一人ひとりの介護度の現状維持ができていながらも、総合福祉施設の利点を生かした日常的なリハビリ機器の活用や合同行事によるところが大きいと考えられる。職員は、「家族と一緒に作るグループホーム」でありたいと願い、また家族とのつながりを再構築する意味も含めて、訪問を歓迎し、外出・外泊にも家族の協力を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 汐風

記入者(管理者)  
氏名 中村利恵

評価完了日 平成21年 11 月 2 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員で話し合っって決めた理念を共有し実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念と基本方針があり、毎日の申し送り時等に、全職員で唱和している。ホームの職員はその理念に沿って自分たちの言葉で表現した介護理念を作成し、日々の介護の指針としている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的な交流はあまりできていないが、施設全体での行事で地域の人との交流がある。</p> <p>(外部評価) 幹線道路からホームのある総合福祉施設までの間に民家はなく、地域との交流は地理的に困難な状況にある。行事は施設と合同で開催しており、その時の交流を大切にしている。今年度は新型インフルエンザの影響で行事に地域の方の参加を求めることができず、交流は少なかった。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 少しずつ家族様には理解していただいているのではないと思われる。地域については、運営推進委員会において理解してもらえよう努力している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、近況報告や取り組みのテーマに沿って話し合いを行い、推進委員からの意見、家族の要望などを聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行いサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 平成21年度の運営推進会議は3か月に1回の開催となっている。新型インフルエンザ等の影響により、利用者と会議メンバーとの交流も難しかったが、メンバーからは、会議を通して「グループホームとはどんな施設であるか、どんなケアがなされているか」等について理解できたと聞くことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を利用したり、分からない事があれば相談し指導を受けている。又、ケアマネ連絡会等で情報を交換し合っている。	
			(外部評価) 帰宅願望の強い利用者への対応について町担当者から様々な助言を受けた経験もあり、信頼関係を築いている。また、町から派遣される介護相談員は利用者と同顔馴染みの方が多く、利用者にとっても職員にとってもメリットが大きい。行政・相談員・ホーム間の役割分担や情報の流れも確立されており、反省を含めた意見交換も実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。	
			(外部評価) 身体拘束に関するマニュアルを作成しており、職員は拘束に関する具体的な行為を理解したうえで、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き職員で理解している。言葉の虐待もあるので、お互い注意し合いながら防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度については以前利用された方がおられたため大半の職員が理解しているが、新しい職員もいるので勉強会を開きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行っている。平成21年4月の介護報酬改定に伴う重要事項の見直しの説明は書面を送付して対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けているが、意見箱に入っていることは、殆どなく、面会時に口頭で伺ったり、介護計画書送付後の確認書等に記入いただいたりして、反映に繋がるよう努めている。  (外部評価) 管理者は、家族と共につくるグループホームを目指しており、家族の訪問を意見を聞く大切な機会と位置づけている。介護計画について家族の確認を得る際に、家族が意見を記入できる欄を設け、自由に思いを記載できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等、施設全体で話し合えるような仕組みになっている。</p> <p>(外部評価) 職員会で意見を出し合い、必要があれば役職会で検討するシステムになっている。夜勤は2ユニットを1名の職員で対応しているが、ユニットの位置関係や居室の出入口の見づらさ、夜間の対応に工夫を要する利用者もいるため、夜勤1人体制についての議論も必要な時期に来ていると思われる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 人事考課制度に従い評価を行っている。一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人職員にはレポート等を使って進めている。又、法人内外での研修への参加も行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話ができる時間をもち、本人の思いや不安をくみとれるように努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との連携を密にする事により、家族の思い、不安、要望を聞き出し、それによって本人様の尊厳を守りながら、良い関係が築けるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人様、家族様の希望を聞き、法人全体や、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理、園芸、行事等について、色々助言を頂いたり、一緒に行くことにより、学ぶことも多く、笑顔の絶えない暮らしが送れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二ヶ月に一回の便りで状況をお伝えしたり、面会にいられた際に家族様と話し合う機会を設けたりして、一緒に本人様を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の馴染みの人との関係が途切れないように家族様に協力して頂き、自宅への外出や外泊を行っている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。  (外部評価) 利用者の多くは入居前に独居生活を経験されており、近所の方との関係を大切にしながら生活していた。その関係を継続するためにも、家族の協力を得ながら一時帰宅・外泊を定期的に支援している。併設施設に出入りする馴染みの方も多く、相互に訪問し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士支え合っている。移動時の付き添いに行かれたり、食事、おやつには、声を掛け合い誘っておられる。心身の状態や気分の変化する時は、職員が介入している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 併設の特別養護老人ホームに入所された方には、一緒に遊びに行かれたり、家族様が来られた時に様子を伺ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用して、本人様の希望を聞き入れている。また、本人様から聞けない場合は、家族様と相談したり、利用者様の立場になって検討している。	
			(外部評価) 本人の思いを把握するため、多くの情報を集める努力をしている。特に家族等の訪問時の様子は丁寧に連絡ノートに記録して全職員で共有し、介護計画作成時にも活用している。元気になって自宅に帰ることを目標にしている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に、アセスメントを行い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族様の意見、利用者様の状態、スタッフの意見を反映して介護計画を作成している。	
			(外部評価) 3か月に1回介護計画を見直している。利用者一人ひとりの担当職員が情報の整理を行い、見直し時の資料としている。介護計画は家族に郵送して同意を得ており、家族の意見を書く欄も設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中、夜勤間の引継ぎを行い情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもあり、グループホームで生活困難になった場合には、家族様お話し特別養護老人ホームの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) グループホームの運動会等では家族様、婦人会の方などに来ていただき、交流を図っている。また、散歩に行った時など、地域の方とお話していただいたりしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異変時 は主治医と家族に連絡し対応している。	
			(外部評価) 利用開始時に本人及び家族と話し合っているが、立地 条件もあり、特別な診療科を受診する必要がある方以 外は、月2回の往診がある協力医療機関を選択する場 合が多い。家族への情報提供については、急変等がな ければ2か月に1回請求書に同封して書面で報告して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホーム併設のため特養の看護職員に相談 したり、診て頂いたりしている。また、2週間に1回の 定期回診には、一緒に立ち会って頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、看護師に様 子や状態を聞き、家族や利用者の意向を聞きながら病 院（担当医）にも確認している。面会に行くことによ り利用者様が安心して入院生活が送れるよう努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしていない。重度化した場合は些細なこ とでも家族に連絡している。	
			(外部評価) 看取りに関する方針は、入居時に本人及び家族に十分 説明している。現在まで看取りの経験はなく、今後も 予定していない。併設の特別養護老人ホームで実施す る研修に参加したり、看護師の指導を受けるなどし て、緊急時の対応は日々学んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、マニュアルを見やすいところに貼ってある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し災害時に利用者様が避難できる方法を身につけている。  (外部評価) マニュアルもあり理解していたつもりであっても、夜間を想定した避難訓練を実施した際に職員が持った不安は大きかった。運営推進会議で訓練の報告を行い、災害時の応援を依頼している。運営推進会議のメンバーも含めて再度訓練を実施することになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) いかなる時も自尊心、プライバシーを損なわない対応に努めている。経過記録の保存にも気をつけている。  (外部評価) 利用者の表情は穏やかで、それぞれお気に入りの場所でゆったりと寛いでいる。職員は、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや対応には十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけも決め付けるような言葉使いはせず、あくまでも本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣装等は家族に相談して持ってきて頂いたりしている。また、理・美容は訪問理容師に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため、献立は管理栄養士が立てている。準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。  (外部評価) 食事に関する一連の作業を利用者と一緒に行うには調理室が狭いため、難しい状況にある。利用者がゴボウを笹掻きをしているのを他の利用者が見守っている姿は穏やかであった。職員は、利用者と同じテーブルに着き、各自が持参した弁当を食べている。	「家庭」という視点から見ると、利用者と職員が同じ食事を楽しめるような工夫も必要ではないかと思われるため、検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 施設の管理栄養士に相談しながら、利用者様の摂取カロリーや栄養バランスの管理を行っている。利用者様の摂取状態を把握して食事量や切り方など配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回声かけして、習慣付け清潔の保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握したうえで、適切な支援を行っている。トイレでの排泄が中心であり、夜間も自室にポータブルトイレを設置する利用者は1人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に相談しながら下剤でもコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックをおこない体調の良い日は、本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日はシャワー浴、足浴、清拭等、利用者個々の状態に応じて支援をしている。夜間帯は事故防止の観点からも実施していない。	
			(外部評価) 利用者の安全確保や、夜勤者が1人という勤務体制からも、夜間の入浴希望への対応は現状では行っていない。本人の体調や気分配慮しながら、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬、服薬忘れをしないように気をつけている。一人ひとり個別に袋に入れている。服薬時には袋の名前と中身を声に出して確認し、服薬して頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る役割を考えて洗濯たみや洗濯干し食事の準備等手伝っていただいている。気分転換に外、中庭などを散歩したり、カラオケなど行ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行練習を兼ねて、近くにある観音様に行っている。本人様の希望で近くのスーパーに買い物に出かけたりもしている。	
			(外部評価) ホームから道路に出るには坂道があり、海風が強い日もあり、気軽に外出できる環境とは言えない。家族の理解と協力のもと、一時帰宅・外泊等でカバーしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人様の希望で、少額のお金を持たれておられる方もいる。家族より預かったお金は事務所が管理しているが、外出時は自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は本人様の希望のある時には支援している。又、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節がわかるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁掛け（壁飾り）等作成したり、居心地よく過ごせるように利用者の希望を取り入れている。また、畳の間では、冬にコタツも置かれる。囲碁を楽しんだり、思い思いの場所ですごしている。	
			(外部評価) 共用空間は広く、ゆったりとしている。床の材質は木材で温かみを感じる。畳の間にはこたつがあり、利用者には昼寝をするのに好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ、畳の間があり、横になられたり、テレビを観られたり、利用者同士話されたり、職員との会話を楽しまれたりと、憩いの場所にもなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みのものを置き利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう雰囲気作りに努めている。	
			(外部評価) 私物の持ち込みが少ない居室もあるが、全体的に清潔ですっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力や状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除けるよう支援している。	